

2022-2025

第2次茨城県総合計画
～「新しい茨城」への挑戦～

IBARAKI NEXT CHALLENGE

【特別対談】

日本一幸せな県へ

茨城県知事

大井川 和彦

WAmazing株式会社 代表取締役CEO

加藤 史子さん

【インタビュー】

幸福を「見える化」ひもとくカギは

特別対談

日本一
幸せな県へ

自身の夢に向かって挑戦し、
活躍を続けられている起業家である、
WAmazing株式会社の加藤さんをお招きして、
大井川知事と「幸せ」をテーマに
対談いただきました。お二人のお話から、
日本一幸せな県へのヒントが見えてきます。

この対談記事は2021年12月に実施した対談を編集したものです。

対談の動画(概要版)に
ついてはこちらから→



WAmazing株式会社 代表取締役CEO
加藤 史子さん

PROFILE リクルート入社後、観光による地域活性
を行い「雪マジ!19」「ゴルマジ!」などを展開。2016
年訪日客向けのアプリを手がけるWAmazing(ワメ
イジング)を創業。

知事 皆さん、こんにちは。茨城県知事の大井川和彦で
す。今日はゲストにWAmazing株式会社の創業者であ
る加藤さんをお招きして、お話を伺います。茨城県が
この度リニューアルする総合計画の中に、幸福度指標
を取り入れることを検討しております。我々の考える
幸福とは何か、県民の皆さんにとっての幸福とは何か、
を客観的な形で指標化できないかと挑戦しています。
加藤さんよろしくお祈りします。

加藤 よろしくお祈りします。

知事 加藤さんは、もともとリクルートのご出身で、
数々のご活躍をしたあとにWAmazingを創業されて、
家庭と仕事を両立されているということでございます。
リクルートのときも非常に活躍されて、面白い企画を
たくさんやっていたらしたのですね。

加藤 リクルート時代は、インターネットビジネスの
事業開発、新規事業開発をやっていたんです。大学を卒
業してすぐに、じゃらんネットという国内旅行のネッ
トサービスの立ち上げメンバーとして、携わらせても
らいました。その後、他の仕事をやったものの、観光に
携わって新規事業開発がしたいということで、じゃら
んリサーチセンターという観光と地方創生の部門に異
動し、仕事をしてみいました。

一つ事例を申し上げますと、「雪マジ!19」という19歳
の方々に限定して日本中のスキー場に、リフト券を無
償にさせていただくというプロジェクトをやりました。

知事 今でも企画は続いているんですね。

加藤 私は会社を辞めたのですが、今でもリクルート
で続いている地方創生のプロジェクトになっています。

知事 そんなにリクルートで大活躍されていて、どう

いうきっかけでWAmazingの創業に至ったのですか?

加藤 観光と地方創生に携わる仕事がとても面白かつ
たのですが、日本が少子高齢化による人口減少に突入
する中で、地方を創生したくても、需要を作り出すのに
限界がある、需要を維持するのが精一杯かなという気
がありました。そこにインバウンド旅行者の増加によ
る経済活性が有望だと思ったのと同時に、社外に目を
向けると、スタートアップ企業に対する資金供給量が
増えていたタイミングだったんです。ここはもしかし
て退職して独立したほうが、人の調達や資金の獲得に
有利じゃないかと考えて。

知事 日本だと大企業を中心に終身雇用が当たり前み
たいな雰囲気が元々あったではないですか。アメリカの
企業だと、次どういふうにジョブホップするかを常
に意識しながら仕事をしていますので、転職とか起業

Fumiko Kato



えいっとやってみる。
それも幸福度を高めるポイント

自分が輝いている瞬間が幸せ

Kazuhiko Oigawa



茨城県知事
大井川 和彦

PROFILE 茨城県土浦市生まれ。1988年東京大学
法学部卒業・通商産業省(現経済産業省)入省。退官
後、マイクロソフトアジア執行役員、シスコシステムズ
専務執行役員、ドワンゴ取締役。2017年9月より現職。

能力が
発揮できる
仕事や
趣味を持つこと



とか身近になるのですが、日本で生まれ育つとものごくハードルが高くないですか？

加藤 高いと思います。終身雇用制自体は素晴らしい制度だと思いますし、一生勤め上げるという意識を持ち企業で働くのも素晴らしいことだと思う一方で、中学・高校生の頃は、3年ごとに卒業が来て、自然と次はどこに進学しよう、どんなことに興味があるのかと考える機会があるのが、20歳そこそこで就職した途端に一切考えなくなるというのは問題かなと思います。

変化は怖いし、ストレスなことだと思うのですが、自ら考えて選択した変化をした場合、幸福度が増しているという、スティーブン・レヴィットさんという経済学者の研究結果もあるので、都度都度考えて、自分がやりたいなと思ったら「えいっ」とやってみるのも幸福度を高めるポイントになるのかなと。

知事 幸福の感じ方は、人それぞれで一概には言えないものの、幸福度について、一定の客観的で比較可能な指標で自分たちを振り返る一つのきっかけになれば良いと思っています。加藤さんは、どういうことが幸せだ

と考えられていますか？

加藤 仕事もですが、家族とか友人とか、単純においしいごはんを食べることができて幸せとか。あとは年収と幸せとの相関がある一定まではあるが、それ以上に年収が上がっても幸せとの相関性はあまり見られないとよく言われていますね。重要なのは、ある程度までは相関するという点で、ある一定の経済的豊かさは大事ですし、生活の質を高める幸せも大事ですし、あとはいろんな選択肢があって、自分の興味のあるもの、自分の能力が発揮できる仕事や趣味が持てる環境も幸せに影響すると思います。個々人で千差万別ですが一定の共通項は探せそうだなと思います。

知事 話を伺っていても思うのが、家庭も仕事も含めて、自分が輝いていると思える瞬間が幸せなのかなという感じがします。輝いているというのは、自分のやりたいことを一生懸命やっていて、その手応えが少しずつ出てきているというもので、それが面白い、楽しい、幸せなときだと思います。そういう意味で私が充実していたのは大学受験の勉強をしているときかな。

加藤 そうなんですか？

知事 全く疑いもなく、一つの明確な目標があって、そこに向かっていくという感覚というのを最初に学んだのは受験ですね。普通感覚だったら大変だと思うこ

可能性を前にして
一生懸命にやれる環境が重要



とが、自分にとっては大変ではなく夢中になってられる、それは仕事でも同じ感覚があって、やりたいことを明確に持てると、その目標に向かって集中できるし、その時間は大変であっても、あとで振り返ると幸せだったのかなというのはありますよね。

加藤 あると思います。辛いことも、苦しいことも、しんどいこともあるが、そこも含めて全部充実しているという経験を特に若い方は積んでいただけないなと思います。

知事 いろんな可能性を目の前にして、その中から自分で選択でき、一生懸命にやれる環境もあり、目標に向かって集中できるという社会をつくるのが大事かなと思います。

加藤 そうだと思いますね。

知事 加藤さんは、お仕事ではどんどん新しいことに挑戦されていますが、ご家庭ではどうなんですか。

加藤 家庭では、よく言えば、自主性を重んじる、悪く言えば、結構放任です。

個人が何かやりたいと言ってきたときは、上手くそれを伸ばせるようにしたいなど。

知事 大変素敵なお話を聞かせていただきましたが、最後に加藤さんから県民の皆さんに対して、メッセージをお願いします。

加藤 茨城県は幸せ度の高い県、No.1を目指せると思います。なぜなら、茨城県は幸福の複数の要素が詰まっていると思うんですね。自然豊かでおいしいものが食べられるとか、きれいな空気とか、素晴らしい環境の中



で生きられるという基本的な幸福はもちろん、コロナ禍によりリモートワークでどこでも働ける時代になった今、生活コストの安い所で暮らせる・働けるというのは、幸福度を間違いなく上げると思います。都心にも1時間程度で行けるアクセスの良さもあり、自分の興味のあるものに対して、趣味を持つとか、好奇心を満たすとか、働くといった多様な選択が県内に住んだままでできる時代になってきているのかなと思います。そうすると、幸福度No.1は目指せるのではないかなと思っています。

知事 ありがとうございます。私まで勇気づけられました。幸福度、なかなか難しいのですが、難しいからと言って諦めずに、皆さんの1つの判断材料になるような指標を作ればと思って頑張っています。ぜひご期待いただければと思います。

今日はお時間いただき、ありがとうございました。

加藤 ありがとうございます。



幸福を「見える化」 ひもとく カギは

「幸福」を指標化するにあたり、様々な分野の研究者や経営者の方から、幸福実現の考え方や取組内容、県に対するご意見やアドバイスを頂戴しました。

※プロフィールの所属・役職等については、インタビュー時点(2021年実施)のものであります。



矢野 和男氏
Kazuo Yano

PROFILE 株式会社日立製作所フェロー
株式会社ハピネスプラネット代表取締役CEO
工学博士 IEEE fellow
AIや社会におけるデータ活用の研究に従事し、無意識の身体運動から幸福度を定量化する技術を開発

世界中で幸福の研究が進んだ結果、実態がわかってきました。幸福は「前向きな心」と「人との関係」が重要であり、無意識の身体運動の特徴から計測が可能です。また「健康だから、成功したから幸福」ではなく、「幸福だと病気になるにいく、成功しやすい」という関係にあります。これらの研究をもとに、前向きな一日を過ごすための行動を促し、身体活動から幸福度を計測するアプリを開発して、生活やビジネスを支援しています。

幸福感は挑戦へのエネルギーです。挑戦する姿勢や県の強み、歴史などを指標にして、茨城らしさが前向きに表れた様々な事柄を指標でとらえ、日々新たな挑戦を継続できる、そんな人達が集まる県になることを期待します。



松橋 啓介氏
Keisuke Matsuhashi

PROFILE 国立研究開発法人国立環境研究所 社会システム領域 地域環境研究室 室長
筑波大学 システム情報系 教授(連携大学院) 博士(工学)
脱炭素社会に関する研究に加え、社会の持続可能性と個人の幸福に関する研究に従事

「持続可能社会転換方策研究プログラム」の代表として、今後の持続可能な社会に必要な要素を考える研究を行いました。持続可能な社会には、環境・経済・社会、そして個人の4分野がバランスをとりながら発展することが望ましく、この4分野に整理した指標を提案しています。

様々な選択を継続できる基盤を整えるという県の方向性は、持続的な幸福につながるものとして適切だと思います。指標は環境や社会、未来の発展に関するものなど様々ありますが、類似した指標を複数設定することは重みを高く付けることになるので留意が必要です。

県民がこの指標を「我がこと」と考えられるよう、指標をきっかけに県民との対話が進むことを期待しています。

産業とともに発展してきた工学技術ですが、今では医療分野でも必須となっています。医療の工学技術は密接に人の命に関わるため、私の人工心臓の研究においても、命を助けるとともに生活の質を高め、人々の幸せを実現することが第一の目的です。

幸せを感じる理由は人それぞれですが、一人ひとりが生きたいように生きることができることが幸せであり、その土台を県が整えるという方向性はとてもよいですね。今回の指標では経済のほか、医療体制や予防医療の充実、本県の強みである農林水産業、課題である女性の転出などが候補になると思います。

今後の人口減少は避けられない状況ですが、住みやすい県として一番の幸福県を目指してください。



増澤 徹氏
Toru Masuzawa

PROFILE 国立大学法人茨城大学 工学部長、理工学研究科長 大学院機械システム工学領域 教授
ライフサポート科学教育研究センター長 工学博士
バイオメカトロニクス研究に従事し、磁気浮上型人工心臓の開発によりQOLの向上に貢献

東日本大震災と国の政策への課題認識をきっかけに、地方から国を変えようと幸福度研究を始め、2012年から5回に渡り客観的指標に基づく全47都道府県のランキングを発表しています。2020年版では都道府県と20政令指定都市、48中核市の幸福度を数量化し、順位付けしました。その背景にある地域の強み・弱みを読み解き、幸福を実現する行動や施策につながることを期待します。

計画の「チャレンジ」の概念は、幸福の要素である「自立自尊」「人との絆」「ビジョンの共有」と密接だと感じます。あらゆる世代が挑戦を続けられる基盤づくりが先々の幸福につながるため、広い視野を持つことが大切です。

指標を活用し、日本一幸せな県を実現してください。



松岡 斉氏
Hitoshi Matsuoka

PROFILE 一般財団法人日本総合研究所 理事長
国・自治体・企業の政策や施策、経営方針等策定に係る制度設計、基準づくり、コンサルティングに従事し、県民幸福度研究プロジェクトリーダーとして「全47都道府県幸福度ランキング」を5回に渡り出版中

「日本一幸せな県」の実現に向けて指標を設定

いばらき幸福度指標とは

県では、県民一人ひとりが未来に希望を持つことができ、自身のなりたい自分像に向かって一歩でも二歩でも近づいていけるよう、挑戦を続けられることが幸せな状態だと考えます。そのような環境の整備・充実状況について、県民生活と関係が深く、個人の幸福と相関があるとされる政府統計データなど38指標により、定量的に把握することとしました。

今後、この指標により、「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向けて政策の方向性を検討するとともに、全国との相対的な比較を行い、指標を通して本県の豊かさや暮らしやすさを県民の皆さんと共有していきます。

ロゴマーク



本指標を分かりやすくPRするため、「四葉のクローバー」を幸福のモチーフにロゴマークを作成しました。

どんな指標があるのか

総合計画に掲げる4つのチャレンジごとに特色となるキーワードを抽出し、関連する38指標を設定しました。今後の社会情勢の変化などを踏まえ、不断の見直しを行っていきます。

新しい豊かさ

- 雇用者報酬 (雇用者1人当たり)
- 正規雇用率
- 県民所得 (県民1人当たり)
- 工場立地件数
- 労働生産性 (1時間当たり)
- 農林水産業の付加価値創出額 (県民1人当たり)
- 外国人宿泊者数
- 国内旅行者数
- CO₂排出量 (県民1人当たり)
- 一般廃棄物リサイクル率

新しい安心安全

- 医師数
- 看護職員数
- 介護職員数 (いずれも県民10万人当たり)
- 介護・看護を理由とした離職率
- 自殺者数 (県民10万人当たり)
- 健康寿命
- 障害者雇用率
- 刑法犯認知件数 (県民千人当たり)
- 自主防災組織カバー率
- 自然災害死者・行方不明者数

新しい人財育成

- 子どものチャレンジ率
- 大学進学率
- 学力
- 教員のICT活用指導力
- 合計特殊出生率
- 待機児童率
- 教養・娯楽(サービス)支出額
- 都道府県指定等文化財件数
- 子どもの運動能力
- パートナーシップ制度人口カバー率
- 女性の管理職登用率
- 人権侵犯事件件数 (県民1万人当たり)
- 実労働時間

新しい夢・希望

- 留学生数 (県民10万人当たり)
- 起業率
- 本社機能流出・流入数
- 若者就職者増加率
- デジタルガバメント率 (市町村)

※掲載している指標については、計画策定時 (R4.3) のものであり、最新の指標については、県ホームページをご覧ください。

茨城の魅力・価値・豊かさを活かす



～「新しい茨城」への挑戦～で目指すもの

基本理念「活力があり、県民が日本一幸せな県」

時代の変化に的確に対応し、これからの茨城を更に切り拓いていくためには、本県の持つポテンシャルを最大限に活かし、茨城のあるべき姿を見据え、これまでの常識にとらわれず、新たな発想で果敢に挑戦していかなければなりません。

県民の皆さんが、未来に希望を持つことができ、自由で新しい発想のもと、自身のかなえたい夢に向かって挑戦を続けられることが、県民が日本一幸せな県につながっていくものと考えます。

未来を切り拓くための4つのチャレンジ

ウィズコロナ・ポストコロナ時代を見据え、本県のポテンシャルを最大限活かしながら県民の皆さんが「豊かさ」を享受し、「安心安全」な生活環境のもと、未来を担う「人財」が生まれ、「夢・希望」にあふれた「新しい茨城」づくりに取り組み、基本理念に掲げる「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向け、4つの「チャレンジ」を推進します。

基本理念 活力があり、県民が日本一幸せな県



4つのチャレンジを柱とした政策・施策展開

ウィズコロナ・ポストコロナ時代への対応



視点：「挑戦できる環境づくり」

県民誰もが、自身のかなえたい夢に向かって果敢に挑戦できる環境をつくります。

視点：「高付加価値体質への転換」

本県のポテンシャルや地域資源を再発見し、磨き上げることで、更に価値を高め、「儲かる」仕組みをつくります。

視点：「世界から選ばれる茨城」

グローバル社会が進展する中でも、世界から選ばれるように、あらゆる分野で本県の存在感を高めていきます。

視点：「誰一人取り残さない社会づくり」

性別・国籍・家庭環境等に関わらず誰もがいきいきと暮らせる社会を築きます。

視点：「ウィズコロナ・ポストコロナ時代への対応」

新型コロナウイルス感染症によって変化したライフスタイルや価値観に対応した施策を推進します。

次のページから4つのチャレンジをご紹介します

チャレンジ
I

新しい豊かさ

力強い産業の創出とゆとりある暮らしを育み、新しい豊かさを目指します。



1 質の高い雇用の創出

- 成長分野等の企業の誘致
- 新たな産業用地の確保及び企業立地の加速化
- 産業を支える人材の育成・確保



2 新産業育成と中小企業等の成長

- 先端技術を取り入れた新産業の育成と新しい産業集積づくり
- 活力ある中小企業・小規模事業者の育成



3 強い農林水産業

- 農林水産業の成長産業化と未来の担い手づくり
- 県食材の国内外への販路拡大
- 農山漁村の活性化



4 ビジット茨城～新観光創生～

- 稼げる観光地域の創出
- インバウンドの取り込み



5 自然環境の保全・再生

- 湖沼の水質浄化と身近な自然環境の保全
- サステナブルな社会づくり



これまで(前計画期間:2018~2021)の成果

- 全国トップクラスの補助制度の創設などにより、成長分野の本社機能等の誘致を強力に進めた結果、多くの最先端分野の本社・研究開発拠点の立地を実現
- 1億円以上の資金調達をしたベンチャー企業数が2018年度からの3年間で延べ13社となり、目標値8社の1.6倍を達成
- 作付面積が100haを超える大規模水稲経営体を2018年度からの4年間で3経営体育成するとともに、需要が高いかんしょの作付面積を312ha拡大(2019~2020累計値)
- 県有施設「茨城県フラワーパーク」を、民間事業者の発想や経営ノウハウを取り入れた魅力的な観光施設としてリニューアルオープン(2021年4月)
- 2020年度の霞ヶ浦のCODは7.3mg/Lと、霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画の目標値(7.4mg/L)を達成

新しい安心安全

医療、福祉、治安、防災など
県民の命を守る生活基盤を築きます。



6 県民の命を守る地域保健・医療・福祉

- 医療・福祉人材確保対策
- 地域における保健・医療・介護提供体制の充実
- 精神保健対策・自殺対策
- 健康危機への対応力の強化



7 健康長寿日本一

- 人生百年時代を見据えた健康づくり
- 認知症対策の強化
- がん対策



8 障害のある人も暮らしやすい社会

- 障害者の自立と社会参加の促進
- 障害者の就労機会の拡大



9 安心して暮らせる社会

- 地域の日常生活の維持確保とコミュニティ力の向上
- 安心な暮らしの確保
- 犯罪や交通事故の起きにくい社会づくり



10 災害・危機に強い県づくり

- 災害・危機に備えた県土整備や危機管理体制の充実強化
- 原子力安全対策の徹底
- 健康危機への対応力の強化



これまで(前計画期間:2018~2021)の成果

- 「最優先で医師確保に取り組む医療機関・診療科」を選定し、第1次目標では必要医師数14人に対し13.1人を確保(2020)。第2次目標7.5人については、4.2人を確保(2022.2現在)
- 働く世代の健康づくりに向け、県公式健康アプリ「元気アップ!りいばらき」の運用を開始(2019)
- 障害者がスポーツや文化芸術活動等に参加できるよう、障害者スポーツ教室や絵画等の作品展示を行うナイスハートふれあいフェスティバルを開催
- 刑法犯認知件数は、16,301件(2020)で、2003年から18年連続で減少
- 個人の防災行動計画となるマイ・タイムラインについて、1,711人の作成を支援(2018~2020)するとともに、誰でもweb上において作成可能なシステムを開発

新しい人財育成

茨城の未来をつくる「人財」を育て、
日本一子どもを産み育てやすい県を目指します。



11 次世代を担う「人財」

- 「知・徳・体」バランスのとれた教育の推進
- 新しい時代に求められる能力の育成
- 地域力を高める人財育成



12 魅力ある教育環境

- 時代の変化に対応した学校づくり
- 次世代を担う「人財」の育成と自立を支える社会づくり



13 日本一、子どもを産み育てやすい県

- 結婚・出産の希望がかなう社会づくり
- 安心して子どもを育てられる社会づくり
- 児童虐待対策の推進と困難を抱える子どもへの支援



14 学び・文化・スポーツ・遊びを楽しむ茨城

- 生涯にわたる学びと心豊かにする文化・芸術
- スポーツの振興と遊びのある生活スタイル



15 自分らしく輝ける社会

- 多様性を認め合い、一人ひとりが尊重される社会づくり
- 女性が輝く社会の実現
- 働きがいを実感できる環境の実現



これまで(前計画期間:2018~2021)の成果

- 本県の生徒がワールドスカラーズカップ決勝大会で金メダルを獲得するなど国際大会で活躍
- 2020~2022年度の3年間で新たに10校の中高一貫教育校を順次設置し「学びの質」を向上させるとともに、2023年度に新たに県内初の科学技術科や全国初(公立校)のIT科を設置するなどの県立高等学校改革プラン実施プラン1期を公表(2019、2020)
- いばらき出会いサポートセンターを中心とした結婚支援事業を展開した結果、成婚者数が増加(2017:1,930組→2020:2,352組)
- 第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」において、これまでの競技力強化の成果により、天皇杯・皇后杯を獲得
- 政策方針決定過程の女性の参画促進を進め、法令設置審議会等委員の女性割合が増加(2017:30.7%→2020:36.0%)

チャレンジ
IV

新しい夢・希望

将来にわたって夢や希望を描ける県とするため、
県内外から選ばれる、魅力ある茨城 (IBARAKI) づくりを推進します。



茨 びより
(県公認Vtuber)

16 魅力発信No.1プロジェクト

- 「茨城の魅力」発信戦略
- 県民総「茨城大好き！」計画



17 世界に飛躍する茨城へ

- 世界に広がるIBARAKIブランド
- 世界に挑戦するベンチャー企業の創出 (茨城シリコンバレー構想)



18 若者を惹きつけるまちづくり

- 若者に魅力ある働く場づくり
- 若者を呼び込む茨城づくり



19 デジタルトランスフォーメーション (DX) の推進

- 先端技術による社会変革やデータの活用加速化
- スマート自治体の実現に向けた取組の推進



20 活力を生むインフラと住み続けたいくなるまち

- 未来の交通ネットワークの整備
- 人にやさしい、魅力あるまちづくり



これまで(前計画期間:2018~2021)の成果

- 首都圏メディア等に向けた積極的なパブリシティ活動やアンテナショップにおける県産品のPR強化、自治体初となる公認Vtuber茨ひよりを起用した、いばキラTVでのコンテンツ配信などを実施
- 海外における販売促進活動やビジネスマッチング等の販路開拓の取組により、農林水産物及び県支援企業の輸出額(2017:90.8億円→2020:102.7億円)や、県の支援により成約した輸出商談件数が増加(2017:38件→2020:122件)
- 2020年に「スタートアップビザ制度」を導入し、海外の優れた技術や人材の誘致を進めた結果、外国人起業家が宇宙ロケット開発会社を設立
- 「茨城県オープンデータカタログサイト」の公開データ数を拡充(2018年3月:186データセット→2021年3月:530データセット)
- 茨城港常陸那珂港区におけるコンテナ取扱貨物量が増加し、過去最高を達成(2017:29,827TEU→2020:47,539TEU(暦年))

未来に希望の持てる新しい茨城づくりに向けて

これまでとは全く環境が異なる、将来の予測が困難な「非連続の時代」を迎える中、「活力があり、県民が日本一幸せな県」を実現するため、時代の変化に柔軟かつ的確に対応し、これまで以上に、前例踏襲や横並びの意識を打破し、失敗を恐れず、新たな施策に積極果敢に挑戦する県庁に変革します。

基本方針	<h2>「挑戦する県庁」への変革</h2>
基本姿勢	県民本位 ▶ 「県民のためになっているか」を常に考え、政策を実行します。
	積極果敢 ▶ 横並び意識を打破し、失敗を恐れず積極果敢に挑戦します。
	選択と集中 ▶ 目的を見据えて選択と集中を徹底し、経営資源を最大限効果的に活用します。

上記の基本方針と基本姿勢のもと、「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向けた施策展開を支える基盤として、「I 挑戦できる体制づくり」「II 未来志向の財政運営」の2つの取組を今後も行財政運営の柱に各種施策を積極的に推進し、全職員が一丸となり、県庁の変革にチャレンジしていきます。

取組 I

挑戦できる体制づくり



●「人財」育成と実行力のある組織づくり

新たな発想で、固定観念にとらわれず、自ら変わる勇気を持って、挑戦することができる職員の育成や組織づくりを進めます。

●スマート自治体の実現に向けたデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

職員が真に県民や県政発展のための必要な仕事に注力できるよう、業務改革や人財の育成に取り組むとともに、県民サービスの充実を図ります。

●働き方改革の推進

「いつでもどこでも」効率的に仕事に取り組み、職員が心身ともに健康で、ワーク・ライフ・バランスを確保しながら、意欲を持って、県民のために必要な仕事や現場に密着した仕事に注力できる環境づくりを進めます。

●多様な主体と連携した県政運営

企業・大学・NPO・市町村などの多様な主体との連携を強化し、「オール茨城」で挑戦します。

取組 II

未来志向の財政運営

●戦略的な予算編成と健全な財政構造の確立

将来世代の受益につながる事業に大胆に取り組むとともに、スクラップ・アンド・ビルドの徹底などにより限られた財源の有効活用を図り、本県が将来にわたって発展していくための健全な財政構造を確立します。

●出資団体改革の推進

出資団体が効率的かつ効果的に運営され、その結果、地域の振興及び県民生活の向上を促進し、県民が更なる「豊かさ」を享受できるように、出資団体改革を着実に推進します。





詳しくは、茨城県計画推進課ホームページをご覧ください。

第2次茨城県総合計画

検索

 茨城県政策企画部 計画推進課 〒310-8555 水戸市笠原町 978-6 TEL.029-301-2523 <http://www.pref.ibaraki.jp/>

